



二百十一冊

日以野

日根聖

日根

日野

廣戸

廣瀨

廣本

廣井

畧譜
胃

内閣文庫		
三五六函	三六〇八八	和書類
一一一架	一一一冊	



内閣文庫		
番號	和	36088
冊數	211 (192)	
函號	156	17

共六

148
598

神田平政



日比野

源姓

之又百俵

家改平國三階中陰二美

小室系兵部右補少丞源小室系

大學子忠良年月之信

上三意心之日比野之及行忠良

忠順日比野八多場忠良之男

七席大書

忠次



記録御用所

如父之同... 萬曆七年... 二月... 廿八日... 廿九日... 廿十日... 廿十一日... 廿十二日... 廿十三日... 廿十四日... 廿十五日... 廿十六日... 廿十七日... 廿十八日... 廿十九日... 廿二十日... 廿二十一日... 廿二十二日... 廿二十三日... 廿二十四日... 廿二十五日... 廿二十六日... 廿二十七日... 廿二十八日... 廿二十九日... 三十日...

月五日... 石... 地... 死...

七名

忠照

實... 七...

元... 年... 月... 日...

十一年八月廿四日
廿七日大正書
六月廿四日
家督の同中
青少く死京
に葬

忠義

七〇五

享保十一年十二月九日
〇同平年四月十六日
元年六月六日
二月十九日
に葬

忠胤

奉次郎

寶曆八月八日

同和九年一月廿二日
至平六月廿七日
至平六月廿七日
至平六月廿七日

七古席

忠誨

宣政元年四月廿五日
宣政元年九月廿五日

東照宮御代



日根野

二〇〇〇百石

友京姓

家改例

中源姓水盛足代
友京姓
中平清浦
其後日根野
中平弘就次男

日根野

古時

筑後守俊成

豊臣大將は上野國八幡山より
来りて石の其後
東照文より其の慶長六年足利
初正の古記より其の信例
後行の仕立より其の
より其の来りて石の其の

徳川之藩国六年退身して其の
行布一病死

弘若

長久保

慶長七年朝臣十二歳
名徳は敏く有得し其の
より其の来りて石の其の
徳川之藩国六年退身して其の

其後書院者。大坂西陣陣小
佐守歌首二級と打捕。同平六
月二日加秩成百石。寛永八年八
月十一日死。四拾二条。世為保福寺
に葬

長又那

長又那

寛永元年朔初賀。同平朔

家督。寛永元年。書院者。病
之。寛永七年八月廿二日死。又
拾二条。弱也。江岸寺に葬

弘宣

弘宣

實弘若次男

寛永七年十二月十日家督七百石

此書後表方寸長文部正二百名
 知○月九年一月廿四日申姓題○延
 室七年七月七日留土根方論和見
 分同中宮中殿○同八年十月廿
 日同身○同年十月日 布衣○天
 二年一月廿九日初秋又百名○同年
 三月廿九日留中居吉○之福二年
 六月又百病免吉公○同年十月
 十九日死○指星系約也○以名音壽

弘直

長九席

二百名分給

賴弘

長九席

松平七代吉家入

弘重

新三席

見弘重長子

弘政

傳八郎

延享七年八月、初見、天和二年九月、
女有宗姓、通之、保元二年十二月十日、
家督の同公年二月十日、病歿、子正徳
元年四月七日、死、女孫、宗同、守子
孫

弘政

左門

正徳四年七月、百家督、山、宗、信、同
月、女、下、初見、寛保四年二月
十五日、死、孫、宗、同、守子、孫

弘量

長左衛門 初門助

延享元年八月、百家督、山、宗、信、同
同、年、九月、初見、同、年、九月
廿九日、田、安、初、者、同、二、年、四月、廿

中書院首の西元六年七月朔日
大宰別出師の西元三年九月朔日
同祖五段の西元十二年八月朔日
天の西元二年八月朔日
西元七年七月朔日
西元七年七月朔日

弘策

織部 和子松

西元七年十二月十九日初見の天

西元八月六日家督の西元
十二月九日初見の西元
西元八月十日
西元八月十日
西元八月十日

東照文清代



日根野

志守百石

夜京姓

中江姓

家茂 湖濱

永慶二年九月代傳中書之位江切力

法平弘就惣願

織部正流五位下

高吉

任長之秀吉之子位授方殿切之

天正八年相利山内系御陣の時
 先づ一市ノ城ヲ攻メ居ル所
 少ク任別近江郡ニ移城スル
 事後
 東照宮ノ直ニ移ル所城ニ依テ
 二万七千石ノ湯ノ谷ニ安テ會陣
 津陣ノ直ニ安テ御陣ノ行ニ同ク
 六月廿二日歿ス

織約正徳位下

古殿

天正八年一城ヲ攻メ
 名徳院殿ニ依テ御陣ノ行ニ
 同ク御陣
 東照宮ノ直ニ移ル所城ニ依テ
 二万七千石ノ湯ノ谷ニ安テ會陣
 津陣ノ直ニ安テ御陣ノ行ニ同ク
 六月廿二日歿ス

保元平治の乱
平治元年(1068)平治の乱
平治元年(1068)平治の乱
平治元年(1068)平治の乱
平治元年(1068)平治の乱

平治元年(1068)平治の乱
平治元年(1068)平治の乱
平治元年(1068)平治の乱
平治元年(1068)平治の乱
平治元年(1068)平治の乱

平治元年(1068)平治の乱
平治元年(1068)平治の乱
平治元年(1068)平治の乱
平治元年(1068)平治の乱
平治元年(1068)平治の乱

平治元年(1068)平治の乱
平治元年(1068)平治の乱
平治元年(1068)平治の乱
平治元年(1068)平治の乱
平治元年(1068)平治の乱

平治元年(1068)平治の乱

平治元年(1068)平治の乱

平治元年(1068)平治の乱

平治元年(1068)平治の乱

平治元年(1068)平治の乱

平治元年(1068)平治の乱

平治元年(1068)平治の乱

平治元年(1068)平治の乱

高純

左京凡位右位下

天保七年

東照宮より高純が御遺徳を

七子高純の大臣常陸守

寛永二年六月十八日死

高次

左京

寛永二年八月家督高次高純

高次高純の真子高純の同

八年十二月二日死嗣子なく家絶

高真

半助

寛永二年六月十八日死高真の

同八年十二月二日足利氏病歿
よりく飯地六右衛門收公の同九年
和知五右衛門と足家とを頼保
の同九年十月十日山内性直
の同九年十月十日

大猷院殿の丸の内宮へ清の寺の所
随方のため同九年九月初日
山内成徳の同九年九月初日
寺の同九年十二月九日

勝林寺の寺

弘明
の寺

同九年十二月十日
弘明の寺
同九年十二月十日

弘次

十右衛門

祝

万治五年十二月廿一日
平書院書の之様六年二月十八日
死回寺の葬

来

十四

元禄六年四月廿六日
家叙督山書院

元禄七年十二月廿九日
同日八月廿九日
人との打ちをせし
三月十二日改易の
江戸に居る
母方の叔父に
移住家水二年七月
死

高信

二五馬 和久知 大京

元禄六年七月廿日家督小菅清
○宝永二年十月廿日宗性退○月
又年二月九日宗相退○同年正月
土官相退○同年十月廿九日
宗相退○同年十二月布衣○同年
二月廿一日宗性退○同年四月十二日
宗相退○享保十六年正月廿日

元禄六年三月十二日死
享保十六年正月廿日

高榮

一學 和事物 節力

元禄六年二月一日家督小菅清退○同
年十一月廿二日宗性退○天保二年
二月十六日宗相退○同年
二月十七日宗性退○同年

寛保二年より延享二年まで
吹上庄在浦村上庄之庄屋有任持○
寛保二年甲寅月廿一日渡持任屋
少く半の上庄村上庄初○同年より
延享二年まで胡籠を傷下庄浦
村上庄之庄屋有任持有任持人

高備

半庄屋

延享九年十一月廿七日

高備の庄屋有任持有任持人

高雅

伊右衛門 初民初た系

寛保二年十一月廿八日書院
番○天保二年一月廿日家督の寛
政元年二月七日死に後継國以年
○宝曆二年より向和八年まで吹上
庄在浦村上庄之庄屋有任持有任持人○

内如二年より同七年まで胡館
 へ備へて一統務村上段二夜令
 抄枚はく揚の吹上西在大的覺
 之者若河版二はね版の吹上西在
 しくはま系家ら備る物と覺ん共
 七夜ね版物りりの四ら場始村の
 十夜版河版美金毎夜ね版の天の六
 年十二月廿日法号しく多村西河版
 へね版の天の七年十二月廿日西ら場

始の村ら太師保有しく吹の天の九年
 二月廿日場始村の版備り版西
 断しくはね版年身お初り多村
 へ同版美金世活仕しく多村西河版
 版をよりまき多村西河版世活仕西
 場始お海同十二月廿日版美金版

守古

二重
おつたま

父の前好有しく此物と秘と

宝曆十二年十月八日
高月殿新不取

高年

水之助

寛政之末七月八日家督中
〇月奉八月十九日初見
同十一年又
月大百出姓組

大猷院殿御代

日根野

百依

每系

家致丸内御代

日根野織物正信右之男

源左衛尉

高當

仁徳院殿御代寛永元年

大猷院殿御代同十一年

月日書

院書の同中元年一月二日法の寛
文元年八月廿六日死之程七歳位
濃國慈雲寺に葬

吉重

権之助

古の事抄書人
実古同助在事の事

吉重○寛文二年七月書院書
○病死○元禄八年六月十日死之程

本蔵同守に葬

高英

源助 初力之席

寛文元年八月廿一日書院書○
貞享四年二月十日相方書院書○同
又元年九月廿一日書院書○元禄十一年
二月 貞享四年○同年四月廿一日
死之程四歳位信濃國慈雲寺に
葬

高堂

伊藏

元禄十六年七月家督山内重清○
宝永六年二月又自山内重清○同
七年七月廿二日死以拉又藏只谷東
長寺に葬

則最

藏之部

實右田長達宗通次男
寛永六年八月長子○同七年
八月廿七日家督山内重清○同他
七月廿二日死以拉又藏只谷東
長寺に葬

高堂

和泉守 織部正

安房守 袖山之部 権左

實谷小助衛次男

西條四年九月廿九日教皇山王書
○同年十月八日皇書院書
○同年九月廿一日御場跡
○同年九月廿一日御場跡
○同年九月廿一日御場跡
○同年九月廿一日御場跡
○同年九月廿一日御場跡
○同年九月廿一日御場跡
○同年九月廿一日御場跡
○同年九月廿一日御場跡
○同年九月廿一日御場跡

年九月廿一日御場跡
○同年九月廿一日御場跡
○同年九月廿一日御場跡
○同年九月廿一日御場跡
○同年九月廿一日御場跡

高勝

檀之初 初源流序

寛文二年十二月廿六日皇書院書
○同年九月廿一日御場跡

十二月十八日布衣の定曆十一年有月
 為九月廿一日甲子年九月廿一日父死同
 言故也
 西和六年二月廿八日為九月廿一日
 廿六年四月廿八日一信
 六年十月廿六日死於九家同寺

懿德

推助 初源次郎

天和六年十二月廿七日家督出書
 信の實政又年九月十八日出家性祖
 同七年二月廿八日出家性祖
 行替子の同八年十二月十日為九月

皇德院教清代

目根野

高子二百石

友系姓

之源姓

家紋 例 廣 九

皇澤國使目根野俊中と弘就

三男九郎大進目根晴嫡子

弘佐

長心連

慶長九年大坂清陣の時浪人

十

松倉豊後守の多岐守陣十有月
初め仕方の把と付のりも豊後守
并々豊後守も松倉十九番の所
と之令く有。洪地守の口底
と肩つた之松倉元年四月十日陣
松平十信守の口つた陣に有
六月間分表のりく欲。陰合と後
左方打たる。汝と肩つた四月十日
日清一戦の初陣物と。四月二年

月かたきと。松倉元
台徳院殿の御瑞の同元年十二月
四書院番の同元年十二月廟案
二首儀。寛永十一年六月初秋書
石令く。又百石。汝の。慶安二年
五月廿七日。元治元年。守り。守り。

弘言

檀十席

寛永十二年二月廿八日
年二月廿八日
年十二月廿八日
十月廿八日
月十二日
中
十人
秋令

十二年二月廿八日
九年二月廿九日
五月廿八日
十二月廿八日
十二月廿八日

弘義

左

長七

初之之評の元禄元年九月十八日
病死同寺に葬

因幡守 江佐中守

江佐次席

弘長

二男惣政の元禄元年十二月六日在
替の同九年一月廿八日没の同十
年二月十八日出家性理の家永二年
四月十八日

長昌は敬靈廟普徳寺に同平
十月廿一日湯見獲合之夜時腹痛吐
瀉の同四年八月廿八日没の同
十二年正月布衣の同六年七月廿
二日没の同六年四月廿二日
新流所府加科之旨に合之
子三首の同七年七月廿日没
○同年十二月七日
新流崩御之旨に合之享保元年

二月廿八日... 同十二年
 三月廿八日... 同十四年十
 月廿八日... 同十六
 年二月廿八日... 同十八
 年二月廿八日... 同二十年
 二月廿八日... 同二十二年
 二月廿八日... 同二十四年
 二月廿八日... 同二十六年
 二月廿八日... 同二十八年
 二月廿八日... 同三十年
 二月廿八日... 同三十二年
 二月廿八日... 同三十四年
 二月廿八日... 同三十六年
 二月廿八日... 同三十八年
 二月廿八日... 同四十年
 二月廿八日... 同四十二年
 二月廿八日... 同四十四年
 二月廿八日... 同四十六年
 二月廿八日... 同四十八年
 二月廿八日... 同五十年
 二月廿八日... 同五十二年
 二月廿八日... 同五十四年
 二月廿八日... 同五十六年
 二月廿八日... 同五十八年
 二月廿八日... 同六十年
 二月廿八日... 同六十二年
 二月廿八日... 同六十四年
 二月廿八日... 同六十六年
 二月廿八日... 同六十八年
 二月廿八日... 同七十年
 二月廿八日... 同七十二年
 二月廿八日... 同七十四年
 二月廿八日... 同七十六年
 二月廿八日... 同七十八年
 二月廿八日... 同八十年
 二月廿八日... 同八十二年
 二月廿八日... 同八十四年
 二月廿八日... 同八十六年
 二月廿八日... 同八十八年
 二月廿八日... 同九十年
 二月廿八日... 同九十二年
 二月廿八日... 同九十四年
 二月廿八日... 同九十六年
 二月廿八日... 同九十八年
 二月廿八日... 同一百年

弘順

唐沢麻 和吉次郎

實織田 長徳 男

孝子○享保二年十二月十二日祝
 ○同十二年二月十二日山内組の同
 二年一月廿八日... 同十六
 同十四年一月廿七日進物書の文

二年四月廿一日死之程又采祥言
年之葬

檀十席 初拾五席

弘周

實弘長二曹

養子〇之文二年四月十九日嫡孫兼
祖〇同年十月廿一日初九〇實保二
年九月二日家督山重等〇定實

年四月十六日出家院書〇定曆二
年六月廿一日大坂國代有
九月初九〇同十年二月二日死
〇程之系同寺〇葬

檀十席 初幸次席

弘安

定曆十年二月七日家督山重等〇同
十二年四月九日山重等〇安次

年一月廿九日回祖寺以同年十二月
十六日布衣の喪改元年二月廿九日病
死の同年一月廿九日改仕の同年
二月十日利根屋新軒の改元元年
二月十八日死に終る同年二月

檀十席 初安次席

弘孫

天正七年九月廿八日初人の喪改元

冒月廿九日家督出立書清の同六年九
月又白書院書の同七年一月廿九日
小倉山系持遊驛の

東照宮時代

日根

藤原姓

家茂九内例 霍丸

日根野使中弓弘就之男

源氏家 日根之孫

弘心

二方氏

東照宮入百卷

信康表の附りまじは天正七年
薨去後和泉國日根郡一執后○
死す

太
九席之儀

正重

和泉國日根郡一執后

九席之儀

正重

象形より江戸府と出祖父と云ふの中
結とん和年何と云ふ外に伊
中よりいふに江戸代より今に江戸人教
り得る由ありと雖も江戸に
日根野織物といふ類を好む者あり
て中織物といふは一和織物といふ

自ら海を有代切を伴て是後極く
去るは未くとも方終のま一智一就
まはるはあともまはるはあとも
伊豆のしんまうふいそる皆あこ
まはるはあともまはるはあとも
の坊うはあともまはるはあとも
又知のまはるはあともまはるはあとも
寛永十五年二月江戸艦本中巻百人
百もはあともまはるはあとも

に海はあともまはるはあとも
伊豆のしんまうふいそる皆あこ
まはるはあともまはるはあとも
の坊うはあともまはるはあとも
又知のまはるはあともまはるはあとも
寛永十五年二月江戸艦本中巻百人
百もはあともまはるはあとも

正福

九席名簿

寛文九年閏十月家督中老所令
定宝二年二月書出祖次如秩之格
法の自書二年九月六日加秩百俵也
基取以の之元正年十二月廿日書出
書法〇四徳之元年二月九日改行
同二年四月十日此回守之書

藤助

利發一拾

正朗

正朗之叔父
實戸松友之場其地領

之元八年十月十日書出子〇四徳
元年十二月五日家督中老所令〇同二
年二月十日書出納戸同方太分保
加取与未取〇五元法之方納戸一書
入作付らまじ〇此之祖前目と以作
付〇之想〇中老書出以子元〇書出
〇之書出以子元〇書出以子元〇書出
世傳〇之書出以子元〇書出以子元

作舟ら徳かたは高きは徳を存す
 是より一と作らるる〇同元年二月
 十二日元之出書徳方〇同元年二月
 十八日加秩百俵友料之於人扶持〇同
 六年増上寺佛殿の普請用度
 保二年五月十八日成切の賞加秩百俵
 〇同二年二月廿六日病歿〇同十年
 十二月十九日病歿〇宝曆八年十月十
 八日死九十一歳下谷等之寺に葬

源次郎

正編

享保十一年十二月十九日家督出書徳
 〇同十二年六月廿九日病歿九十一歳
 文政元年八月八日死九十一歳源等に
 院に葬

正書

源助 初孫七郎

元文元年十月二日家督山内清隆○
寛文元年四月十六日之方出納戸○
西和七年十二月九日病卒○女水六軍
二月十日死○葬在桑田寺に葬

九席之坊 初 派次郎

心媽

實権川店在馬秀隆次郎

宝曆十二年十二月九日薨其子○四

和元年十二月十六日大黒番○同六年
二月廿二日米納戸○同年十二月十
八日布衣○安永二年二月十三日病
卒○葬在成五徳ら多村同月十日
時辰之辰○同元年二月廿二日薨
五徳行舟○同元年六月廿九日薨
○天保元年二月廿八日薨米納戸
○同元年十月七日米納戸○寛文及
二年九月又日山十人額

心真

久文席

孝次席

天保九年十二月九日卯刻
年十二月廿七日出書院番

藏有院殿宗代



日根野

高之百俵

有系姓

家茂別名
房九

日根野長文席古次二男

甚次席

弘道

父宗長子也一守家也二守家也
寛文七年十二月十日二百名

少當法郎の事如悪地を付唐米と旨
儀に換納の事お家代々お番の家と
いふ。此又お家代々お番の家と旨
十九日大番番の元禄二年六月十日
右坂田屋を以ての事此二年九月
東府の旗本より病あつて許見
あつて少當法郎の事此二年三月
月四日死す。此系物也。江島守
の事

弘重

新四郎

實名は次四郎

元禄二年二月十日見當子より
同日同年十二月十日大番番の事此
年二月十日大番番の事。同日八年
二月十日大番番の事。同日八年二月
十日大番番の事。同日八年二月十日

弘政

是又席 初基之迄

實弘直男

室永六年十一月十七日若子○室德
六年二月廿七日家督由若子○享
保九年十一月九日大甲書○實之延元
年十一月廿八日大甲書組以○室曆
七年十一月廿二日病免○同八年

九月廿八日死○年又兼同守子孫

長四郎 初大右

弘素

實弘重男

寶源二年二月九日若子○室曆八
年十二月二日家督由若子○同九年
十月十二日大甲書○明和二年十二月
廿七日病免○若子四年十二月廿日

元禄十一年八月同守の事

弘道

表文部 初太右

元和二年七月朔日初賀○安永四年
閏二月廿二日初賀○享和元年
二月七日太右書○寛政九年二月廿
二日初賀○天保二年二月廿二日初賀

弘成

又席右

安永六年十月廿二日太右書○寛政
元年七月廿二日初賀

弘珍

新田席 初太右

寛政十年七月朔日初賀



東照官清代

目野

高子又百之裕云

友东姓

家紋

瑞丸
笹丸

目野前系海後之位真夏三千氏

正二位権大納言晴光長子

目野権大納言通唯公

輝資

實廣権大納言國光男

京都より日野にお侍度長年
植大納言と稱し長子得宗の家
傳と譲り同十二年八月廿二日出
家唯公と稱世後

東照文の京都より清忠の御より
後府の御より清忠の御より
同十八年後府より清忠の御より
初其御より清忠の御より
同十八年後府より清忠の御より

望より清忠の御より清忠の御より
近江國日野の御より清忠の御より
同十八年二月に別府より
の御より清忠の御より清忠の御より
初其御より清忠の御より清忠の御より

四月

東照文の京都の後同月より
右徳院殿より上使中より清忠の御より

公は平家朝臣、我誠河内守、世傳と作下
る初はきく、元和九年七月十日
上洛、同年八月二日死す、葬
善地云々

伊豫守 和志市麻

資榮

海士南公
實は房太馬助の業長男

元和九年卯孫の續と云々

老詠お疾の寛永二年父お疾高
の如く云々

大藏院殿清休公の如く云々
二月十日百二の家○同年二月十日
和子叙し伊豫守と改回日苗月
日光正法事、田用二月十日苗月
百廿六日苗府の如く云々、二年二月

公

東宮御下奉之上四月九日重部出使
同日又出使有月十日歸府○又
享二年正月九日伊勢清原代○同
年四月又出使大百石○同年九
月又出使清原代同日十日出使
同日又出使清原代○同年二月十日
後為院清一國志○府京部八使七方
四月十日又出使府○同年十二月十日

侍從○同年九月十日又出使代
同日十日出使同府十日歸○元福口
年十二月十日又出使○同年七月
十日又出使○同年八月十日又出使一
歲本不法恩寺子葬

資政

又市席

寛文九年二月十日又出使
寛文九年二月十日又出使

資成

壬午 舊 和 推 十 席

後仕唯惠
實資資資資資

宣文九年十月十日初定○之福
十年七月六日家督表○之○家
七年十二月十六日改仕○享保十年
宣文九年十月十日初定○之福

資浦

民部 和 之 約

壬午 壬午 壬午 壬午

實上南之水重次二男

宣文七年九月廿日初定○國年
十二月十六日家督表○之○元文
宣文七年十二月十日改仕○宣文九
年十二月廿日初定○宣文九年
宣

資陽

善後寺 初大學

享保十二年十二月十二日初見〇元文
二年十二月十日出家督表之家〇同
四年十二月十日出家位中位
善後寺〇及〇同六年正月二日保
濟宗氏七日午時二月七日保福〇寛
保二年七月廿日〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

元代廿九日〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
年二月二日〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
其官保福〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
元代廿五日〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
少々〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
神宗〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
同年十月〇日

將軍 宣下に付事致し

大津所より江使了畢二月十八日歸
湯沼位下より津批叙の意旨宣下
三月二十日日光御代十日是時
歸湯○同冬年三月二十日日光御代
十日由所より歸湯○寛文二年六月
八月日光御代の意旨宣下○寛文
二年二月二十日日光御代同寺

資直

主税

明和六年十二月初七日初見○寛永
九年十二月十日日光御代の意旨
○寛文元年正月十日日光御代

資施

玄蕃

實高山守忠与義紀二男

天保六年十二月廿二日尊養子〇回

七年十二月廿二日初〇家改以年

正月廿二日家改以年

右徳院殿清伏



日野

高百又拾儀

友系姓

家改附友

後二位右大臣中將真友清胤日野
右馬允清道家上家上仕清道七代

清左衛門

時信

家上家上仕元如年中被家斬

絶の好江戸女も年月を知らず
唐菜百俵○同七年二月

東福門院清入因信宗清所より勤仕○
寛文十二年二月廿一日死京都寺町
大寧寺に葬

正親

藤之坊

寛文十二年二月廿一日死京都寺町

女院清所所出所○崩清より延宝八年
八月江戸より出書信入○元禄二年
十月廿一日書信所改役○同八年
二月廿七日病死○同年十二月廿一日
没○同七年二月廿一日死海軍
寺町東國ちり寺

正徳

小左衛門

實忠破了殿大若殿人回任左衛門忠武少將

元禄二年十二月十二日解官
○同
元禄二年十二月廿二日家康山家康山同
十年六月廿八日支配勘定
○同
四年二月上方西方七月朔日帰湯加秩
又指儀
○正徳四年四月廿九日忠俊
○元文四年十月廿日病歿
復讐討殺

○寛保二年七月廿六日波仕
○元享元年八月二日死
七十六歳
同寺了
葬

正徳

山左衛門 正徳二年

寛保二年七月廿六日家康山普
正徳元年四月廿六日山左衛門組
○大納言山山左衛門組
○元享元年四月廿六日山左衛門始

同十二日復命武教○宝曆七年二月
官為九中人組長以同十一年八月官
出為九初○同和元年二月廿八日清
郡其以の事以之年四月十日家
門切之書之取○同九年七月廿四日病
免○天明二年二月廿七日没仕○同二
年七月晦曾死七年又兼同寺子孫

正櫃

忠孝堂 初令及郎

後之清 其九郎

實心野山次郎自親之男

宝曆八年二月廿百初年長子○

如以六年十二月十九日在書○天所

之年七月初日死又中同家同寺

子孫

正雄

少左衛門 初者三郎

初朝旂 正榮

實正 檀越願

天保元年八月七日攝津縣祖○同二
年二月廿七日家督山宮清○實政
二年二月十日支那世活以救回軍
里百廿二日少○南十人技指編○同六
年三月廿九日病歿

東照宮御代



廣戸

藤原姓

高四白石

家紋 七輪星

二階堂山城三郎以村八代之
後胤先祖太師刑部藤原久行
二代之後胤廣戸修理滿行願
從五位下備後守忠行嫡男

備後又三郎

正之 二十二年

廣戸

始於駿河今川義元其仕其後永祿
 十二年己未年丁卯日不知於遠州濱松
 東照宮被 匠出知行言四百心洋領
 年号月日不知
 台德院敏時代無後高二居五下 ○
 慶長十七年青月上日死八拾三葉
 世四谷勝光院上葬

正堂シゲ

半十席

年号月日不知家督
 東照宮
 台德院敏
 大猷院敏
 叢有院敏神四代奉仕清細奉行
 ○承應三年七月二日死六拾
 七葉同寺上葬

正由ヨ

三席右邊

實黃山十助某二男
○年号月日不知養子家曾
○寬永四年月日不知大由者
○延寶五年一月廿四日死六十
八歳同寺不詳

島右馬

正方カク

寬文十二年五月廿八日大由者
○元禄三年十二月廿八日大坂

沙枝本奉行○同去年者
廿二日忠被損其於大坂
仰付○同十五年十月四日於
大坂病免其下○同年
十二月八日小曾信○享保
二年八月廿八日死七拾一歳
同寺不詳

年十席

正賢カク

安貞之御在處正由名

元祿四年二月四日封養子

○同年十二月二日從部左近

大守名○寶永六年九月旨

病免小普信○享保二年

七月廿日死六拾六歳同寺名

世藏 半十席

正狀カク

美山享保二年八月廿八日嫡孫名

家督小普信○同十二年正月

二日大御名○寬保元年

十一月廿日元方御名奉行

○延享三年十一月七日大坂法被

損事以法被之時服二合名

洋領○年号月日不知二條所

城内法小普信使後所用金二枚

二条表名法小普信使後四年

大坂表日瑞府復令式枚洋領

○年号月日不悉因所、天王寺
 新規、津、津、普、德、後、合、式、枚
 津、領、○安永九年三月三日福吉見
 番、之、隊、○同九年四月廿七日病
 免、小、普、德、○天明四年三月廿
 死、七、十、六、歳、同、寺、不、葬

之、帝、右、造、八、年

正秀 ヒナ

大、海、川、津、地、行
 實、市、川、藤、左、馬、忠、昌、三、男

寬、延、四、年、九、月、十、日、御、年、養、子
 ○安永五年三月十九日從前
 后、領、大、治、番、○天明四年十月
 廿、六、日、家、督、○同八年二月廿
 死、五、拾、二、歳、同、寺、不、葬

廿、十、郎、久、米、之、助

正玄 ハル

天明八年六月廿日家督、小、普、德
 ○同、年、十、三、月、廿、三、日、初、見

○寛政二年二月十日大津藩
 ○同四年二月十日同十月十日
 助益夜旦○同六年九月廿五日
 釵術 上院將二重一及編編一
 及洋臥○同七年二月十日
 津康物之品津場和物○同八
 年二月十日
 ○同十年二月十日於中仙道大
 官名上麻將和物

大猷院
 ○ 廣戸

藤原姓

高戴百拾家
 家紋 拾

先祖山城三郎行村時代何國
 何方之申候不知名住家名
 二階堂之稱何好忠何家名
 廣戸之改右忠何幾何何
 不詳其師正親嫡男

後古書

正武タケ

慶安二年十一月廿八日新親視
臣出新法書甚長二相勸以事
兼德元年十一月十八日新親視
古切兼武百大拾儀洋成○貞
享之平六月廿六日御書物
奉以○明曆二年十一月廿六日

御書皆令勅身券令三枚相成○寬
文九年十月十八日御書皆令勅身
券令三枚洋成○元禄八年
月日不知老免小券令勅○
宝永二年四月廿六日死八十歳世
田ヶ谷勝光院小葬

本在處

行寬ユキ

延宝六年三月廿六日辰被令

正信

大治青... 延宝八
年四月廿六日... 通法切米
武百依... ○天和四年正月
十日死同寺... 葬
平古... 春岳

年号月日不知次男物類領
○元禄四年... 正出
大治青... 通法切米武百依

治 ○宝永二年正月廿六日
家督 ○同四年正月廿七日
涉腰物... ○享保八
年八月廿八日... 廣浦
○同十一年二月四日... 病免小
當... ○延享元年八月...
老... 隱居 ○同二年二月...
死七十二... 同寺... 葬

平右衛門 初八席

正泰

安貞十年十一月某二男

○享保九年六月六日齋養子

○延享元年八月廿日家督

小當道 ○同二年十月廿九日

大湯番 ○寛延四年七月有

於大坂在者死 早中兼大坂東

寺町天宮寺 在

小吉

正久

實所被劫為信者次男

○寛延四年十月三日家督

小當道 ○宝曆三年正月

十五日死十九歳也 田上右

勝光院 在

市十席

正道

实坂部三右卫门正徳次男
 ○宝曆二年四月四日兼奏子
 家督小吉彦彦 ○明和四年
 正月廿三日大沙苗 ○天明四
 年九月二日死甲十八歳日守
 一子彦彦

子藏

正春元

天明四年十一月六日家督

- 同八年十月廿六日御目見
- 同九年八月廿六日大沙苗

山口徳院御印代



廣戸

菅原姓

高六百石

家紋 檜 七ツ星

廣戸之弟刑部丞久行旧儀
除備後守忠行三代従五位下
伯房子政之(二男)

半七郎

正親 マサノ

慶長十九年正月日不知

台德院教
下總五番取
賜大坂陣
得之度

大猷院教
小菅清孝
上
各勝光院

半
半

行隆

始正直

寬永九年
初見
大
所
不知
老免

新皇位を以て取来りて法皇御孫御
地方に由りて於常陸國に
於て九月廿八日都合之六日
○寶永元年九月
廿九日死八拾日歳同寺に葬

有左邊 中右邊

改氏

慶安二年十一月十八日新親
氏 右出新法書由切米由百

又拾俵淨願 ○寶永二年
又同死八拾日歳同寺に葬

又云書

行次

寶永七年正月親四男

○年号月日不知中養子

○寛文七年十月五日新親

右出法切米三百俵揚出中

組 ○寶永元年九月廿九日

家督 ○ 同年十月十日初見
○ 同三年八月大月死七拾歳
同寺一拜

事七郎

行通

實森本惣之丞及武右男
○ 元禄十年十月六日駕
去 ○ 宝永三年十一月
二日家督 ○ 同年十月十日

清自見 ○ 同七年七月日祭
治小姓組 ○ 享保元年八月
大田月病免小僧清 ○ 同九年
十月九日沙汰組 ○ 同十六年
七月廿九日死又十一歳同寺
一拜

事兵衛

行賢

享保十六年十月十日家督

小菅院 ○ 同平上青
行目見 ○ 同平上青
沙書院 ○ 安永元年上青
二月北六拾四歲同寺

大兵衛

行允

安永元年上青上七日家督小
菅院 ○ 同平上青上五日所
目見 ○ 同平上青上八日所

沙書院者 ○ 同六年九月分
波明院教養所
將軍家御中
四月二日沙書院者

東照宮

廣平

初加友



藤原姓

高百五拾俵

家紋 飛龍

加友左馬之介嘉明後胤之重
中侍以得々傳託之入右将

藤原氏

加友孫右衛門

昌道

東照宮上之河國与江右出奉仕

壬辰沙洲人百平号月日知
松平隆慶多忠吉卿奉仕
忠吉卿沙洲逝去沙洲之
石之身浪人之河之在
第万治三年正月七日死年
葬地不知

加茂六郎左衛門

昌清

之河國領年号月日不知死

年齡葬地不知

加茂九郎左衛門

昌安

中名加茂之百之知叙又廣平
之席右邊其右不知名字之改
右之叙之右洋

○私父加茂之百之知叙又廣平
後沙由北之右出叙又廣平之
来方同居之百之知叙又十平

国六月廿八日法苑流布入法切案
 垂通七拾俵又人技持案○
 元禄九年九月廿七日同组组以
 法苑流布不致合百六拾俵又案
 ○同十三年六月廿七日病免小案
 ○同年六月廿七日死年終不
 小月同廿西寺小案

勤九郎
 昌房

元禄十年六月廿三日法苑流
 布切案 俵有法切案垂通七拾俵
 又人技持場○元禄十三年
 七月廿一日又法苑流布小案
 ○宝永三年七月廿一日法苑
 组以○享保三年三月法苑
 淨念院教流布法苑用五紙○
 同十三年四月廿九日 淨社系流
 ○同十三年六月十九日法苑

下奉仍○元文元年十月十八日
 所奉仍○延享四年八月十日
 同收一同涉及○白放小重後
 遍塞○同平十月十日
 御免○寶曆四年八月三日
 隱居○同平十月十七日
 不知死同寺平在并

八木市

昌春

安富富源源取来男

延享元年二月十八日

○宝曆四年四月六日

○同平九月廿八日

○同七年十月十八日

○同九年

○安永

○天明三年七月十日

○天明三年七月十日

女歳同幸ノ一ノ花ノ

之之巫

昌寛一ノ

实小贞平五年昌隆ノ男

○明和七年九月酉日家督養子

○天明三年七月四日家督小

常徳ノ○寛政三年四月女有

隠居

女席八

昌行一ノ

实女席八命昌春ノ男

○寛政元年十二月才養子

○同三年四月女六有ノ家督小

常徳ノ○同四年九月女有

小常清一統ノ御同具



廣瀨

源姓

高百六拾俵

家紋

在因滿參事遠但重録
格換

清和天皇二十二代後胤廣瀨
七節信親大和出磨部居在
以為女子孫稱廣瀨信親一男
廣瀨石見守光信男次濃
光永道常隆國居巨細城
不詳廣瀨美濃一男廣瀨

御衣為廣瀬丸馬之女甥

治元馬

光包ミツカ

治元馬光包廣瀬御衣馬廣瀬丸馬之女同母也石出大坂也度所陣之御供守三州之橋組七十溪之月本多氏後也組之臣

東照宮

台德院教度也御自具也石出御衣

作改易以後大御高氏内取有身組与力也石出二條大坂所南御大猷院教御上洛之長御供仕也及云云安元年二月廿六日於江死年齡不知淡草中然寺也

治元馬

包榮カネ

大坂京橋組与力○天和三年十月日不知死

光貫

吉太史 初名新平

延寶八年正月日不知

常憲院敎所代被任候分湯治院

石出治切及七拾俵女入扶持下

○元禄十年正月日不知並通

口是了宗出徒自身○同年月日

不知病免小名吉徳○享保十三

年七月十八日死年終不知

法草本然寺法草

老八郎

貫吉

享保三年十月九日嫡孫繼祖

家督小名吉徳○同四年九月

廿九日西元火之毒○元文元年

六月廿九日西元出徒自身○同年

四月廿九日病免小名吉徳○

寶曆元年十一月廿六日隱居

安永四年八月廿六日死七拾二歳
同守下 葬

伊八郎

吉^{ヨシ}舜^{サト}

寶曆六年十一月廿六日有家智
小宮清 ○同八年四月廿六日表之
者 ○同九年十一月廿六日表之
○同十一年八月廿六日表之
山領刻 沖用 ○同十一年十一月

廿二日由勅定吟味及子謝 ○
同十三年八月廿六日由勅定府御城
内外并室基登院御修理沖用
度銀拾五枚 ○同十一年十一月廿六日
三州滝山御宮之外所之由後後
沖用 ○同十一年八月廿六日由勅定
令或拾女系 ○明和元年十一月
日不知帛端 ○同十一年十一月廿六日
不知度銀拾五枚及沖領 ○同十一年

八月十八日由勘定吟味及配
吟味方改改並三年由是吟味
系下○同六年三月六日吟味方
改改百石指依之於下於由網條
御自見○同年七月七日西元
表真石修復御用○同六年七月
亦有太石修復御用三年復令
是故○同九年八月十日燒失
跡御橋御門之石外治彼後

御用○安永二年二月十日
東殿山由再建御靈公由香
治御用○同年七月廿日
復令或改治頃○同三年有
亦九月御橋御門之石外治
御用復令或改治頃○同
六年八月二日東殿山中堂
諸堂社御修復御用○同
六年七月九日七復令或改

江戶。○同七年十一月廿六日濱州
勢州。○同七年十一月廿六日濱州
同八年正月廿三日右京行用。○
相物。○同九年正月廿三日右京行用。○
二月四日江州山門清堂社。○
從後御用。○同年同月十七日
正殿。○同九年正月廿三日右京行用。○
同年十一月廿三日。○同月
廿八日。○同九年正月廿三日右京行用。○

八月六日。○同九年正月廿三日右京行用。○
同月。○同九年正月廿三日右京行用。○
同年十一月廿六日。○同九年正月廿三日右京行用。○
二月二日。○同九年正月廿三日右京行用。○
二月。○同九年正月廿三日右京行用。○
府。○同九年正月廿三日右京行用。○
同。○同九年正月廿三日右京行用。○
同。○同九年正月廿三日右京行用。○

○同二年七月十五日右同以
 涉那時後式之活領○同年
 上月初日瑞府御目見○同
 三年七月十五日右同以水服時
 服式之活領○同年七月十日
 瑞府御目見○同四年七月
 十五日右同以水服時服式之活領
 ○同年七月初日瑞府御目見
 ○同五年七月十五日右同以水服

時服式之活領○同年七月初日
 瑞府御目見○同六年七月
 十六日右同以水服時服式之活領
 ○同年八月十五日右同以水服時服式之活領

右之遊

吉利

天明六年八月四日右同以水服時
 服式之活領○同年七月八日
 右同以水服時服式之活領

瀧池山之社口池邊所用○同
年十二月廿六日慶辰拾枚湯
○同八年八月廿五日吟味方改
改出先此書外之良是上之席言
以勸是也 始才出勸之吟味改

手附○同年十月廿日

清基標少婚札所用掛○同九年

二月十六日大慶限七枚細領○

同年四月廿日中央改改後後

方之節改所向系網所用掛

○同年九月十九日札方之貸出也

倉出改正所用掛○寛政二年

二月十日後方之三節方倉吹方

所用掛○同年四月廿五日札方

貸出倉出改正所用慶令三枚

○同年七月廿七日浪産文字浪

吹方所用也○同年九月廿日

倉出出之綿所用掛○同四年

正月十五日公家元系向所用掛
○同年四月廿七日太在後浪後
○同○青在日公家元系
系向所用掛右所用中出
全一月三支了以下○同年青
六月公家元系向所用掛○同
六年一月廿八日全浪分洞吹方
所用掛○同年七月廿六日太
後浪後所用掛○同年十月

六月日公家元系向所用後浪
指後所用掛○同六年八月八日公
家元系向所用掛○同年
十月三日家督○同年同青
十八日公家元系向所用後浪後
所用掛○同年三月廿八日公家
元系向所用掛○同七年
四月廿四日太在後浪後所用掛
○同年六月廿日評定所用掛

○同去年二月九日上徳出連保持
 上野五摺割村端所換比爾
 ○同年同月廿七日出曉御成金
 印枚時服式ツ洋領右洋用序
 日光 御宮 御靈金洋札

後有元


藤原姓

家紋 丸に龜甲

之七拾俵之杖持

先祖伊賀國若良由中傳不詳
 廣本所仕處の保行也願

定古處 初三節之湯

保信 ヤスノブ

寛文三年四月日不知於御田
 御敷由佐ハ正由切末七拾俵

又人技持場○同六年十月日自
 館林御城出官遣_レ長下奉行
 ○同七年十月日自_レ出別依野
 比山内伐木御用同年六月九日
 三ヶ年_レ在_レ越山用_レ幕常相勤_レ序
 府○延宝八年十月日自_レ知
 常憲院敷西丸_上是_レ為_レ入_レ在_レ湯依
 西丸出_レ使○天和三年出_レ在_レ丸_上
 刻人_レ在_レ成○元禄十年

八月廿六日大奥進均取次上書○
 同十五年八月六日_レ年_レ發_レ不_レ得
 死下_レ在_レ坂_上在_レ春_上在_レ少_上院_上在_レ葬

三席出_レ湯

保政

元禄十二年九月廿八日家督
 小宮清○同年十二月廿六日
 表火_レ在_レ者○宝永二年_上在_レ西_上月
 出_レ使_レ自_レ分○同三年七月病_レ死

病免小宮修造 ○享保十八年
三月四日老免隠居 ○寛保元
年丁未月廿三日死 七拾二葉麻
布敷下中光寺下寺

之糸興清 碧月苑助

保泰

享保六年丁未月廿九日官家留小宮
修造 ○元文元年七月十二日此迄
同封 ○同六年丁未月相列隱居

香組大筒袂袍具分出用 ○同
年壬戌月廿五日此勘定 ○寛
保三年八月六日同東門之流
作場換地出用 ○同年丁未
年丙午 ○同年丁未月廿九日
出用掛 ○延享元年正月
同東門之流作場換地出用
○同年三月丙午 ○同年
六月伏州出用同月廿九日此

時服二合或救活願○同年
十月歸府○同二年正月寺
常陸上野下野上總武苑
玉新田并流作場換地出用
出服合老救活願○同年行
歸府○同四年十月廿四日
四拾老兼同寺一拜

合三席

保久ヤスヒサ

延享四年十月廿四日家曾小書
讀○宝曆三年六月十一日
小書信組支配○明和女子
所自見○天明之年十月
廿八日死四拾或兼同寺一拜

千次席

敬系文シナ

天明元年十月廿九日家曾
小書讀○寛政九年十月廿

亦目見持格支配勘定
酉年十二月五日
年七月六日
勘定

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

大猷院



廣井

二百張

格外人持持

源姓

家紋

三三三
三三三

姓之由處不詳
家業外科
代々相子

宗安

朝継

大猷院
代々年号月日不詳

石出河内東山白依湯御書外科
于後真浩御療治也 似才
沖金念身町全受湯○寛文
九年十月十日北濱草面光寺
占辨

宗以

朝義

寛文九年月日不知家督寄
合○延宝四年四月廿七日九

岡寺占辨

宗彦

義行

延宝四年七月日不知家督寄
合○元禄三年九月十九日家業
不勤身法切米或百俵等 白上
江戸十里所追放○同六年春
九月江戸所追放御免○同十二
年六月七日等 白上小菅後

○同十四年十一月廿日御目見
○宝永七年九月十六日新
規法扶持方拾六人扶持以下
○享保元年七月廿日御目見
了

宗安

義房

實川了隊主昌之男
○享保元年十月廿日御目見

養子家督小巻信○元文
二年四月十日小石川養生所勅役
○寛延二年十一月廿日御目見
新泉寺口葬

宗以法眼

朝方

實川了隊四男
寛延二年十二月廿二日家督
小巻信○宝曆六年七月九日

小石川養生所勅及○同七年
 十月九日養生所病人療治
 出糞牙別使便後浪七枚下
 ○同八年三月十日所書外科
 ○天明四年十二月十日所書
 奧津醫師○同年三月
 十日
 津家女君所診及治年○同七年
 十月十八日

種娘君所診及治年○天保六
 年正月七日所書外科
 ○寛政元年十一月十六日法
 眼○同年四月十四日死六十九
 歳同寺一葬

宗壽 宗春 氏次第

盈頭

安永六年三月十日初見
 ○同七年三月十日家業

出精牙新規
石出河者

外科 ○寛政六年四月廿日

奥津醫師 ○同年六月廿日

大納言致津診 ○同年四月廿日

將軍家津用子塗茶獻之 ○同

年四月廿日

津基所

後非若津診云傳牙 ○同年七

月四日

將軍家津用子塗茶獻之 ○

同年三月十五日

致之助致津診 ○同八年三月

廿一日

致之助致津診 ○同八年四月廿日

致之助致津診津高茶茶上

○同年八月廿日

後非若津診同八月廿日可拾

又後非若津診本意可百儀 ○同

十月十八日

總姫君御診 ○同年^九二月七日
將軍家御用意御藥之^上御

○同年二月廿六日

敬之助御用御膏藥之

○同年二月廿八日

將軍家御用御水藥之^不御
敬之助御用御膏藥
先之^上御白浪三枚於奧洋質

○同年二月十日

御星所御用意御藥之 ○同

年^不御

淑姫君御用意御藥之 ○

同年二月十七日

御星所御用御水藥之 ○

同年三月廿六日

大納言御診縮緬式卷西丸
於奧洋質 ○同年四月廿

恩旨下御紋附御林歳洋飲
○同年年同月廿八日

將軍家御用御膏藥献上○

同十年三月三日

豊三郎御用御珍○同年年七月

女一日下道並御後防以御治

金貳拾五兩并(下)方於奥

洋領○同年年八月八日

格娘君御用御珍○同年年同月廿日

格娘君御用御膏藥献上○同

年年同月廿五日

將軍家御用御粉茶献上○

同年年七月八日

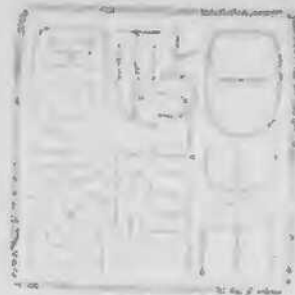
教之助御用御他藥献上○

同年年三月廿七日

大納言御用御珍御用端細紗卷

西丸於奥献上○同年年

正月六日



御墨所御用御塗藥獻之○同
年十月十日

滋振若尾州ハ御入連後御守殿

后出御珍且御用等了勤旨

此 御守○同年十月十日

又百非若御珍御用御用此藥

獻之○同年十月十日

大納言御珍御用御用御用

西丸於真之



